# 城下町絵図の分類と
# 絵図からみる近世松本城下町

# 目次

Ⅰ　はじめに

Ⅱ　対象地域の概要

Ⅲ　研究方法

Ⅳ　城下町絵図の分類

Ⅴ　絵図からみる松本城下町

Ⅵ　おわりに

# Ⅰ　はじめに

矢守（1970）【城下町プラン論】

- 城内・侍屋敷地区・下士の組屋敷地区・町屋地区などの相対的配置関係や囲郭を考察することで，全国の近世城下町を5つの型に分類

渡辺（2010）

- 城下町絵図研究の観点として、絵図の作成（景観）年代や記載情報・描写内容の考察を基礎として、絵図の精度や作成者・作成機関の考察や、作成目的および利用状況への注目、系統関係の解明を挙げる

# はじめに

小野寺（1991）

- 絵図の解読をするにはまず作成主体や作成目的、作成過程について考察する必要がある
- 絵図の多くは作成目的や絵師の名、作成過程を絵図自体に書き残すことが稀
- 原所蔵者の手を離れたため、付随文書が見出すことができない場合も多い
- そういった場合には、類似の絵図との比較や断片的な付随文書の利用などにより妥当な解釈を積極的に加えていく必要がある

# 研究目的

- 松本城下町絵図は付随文書がなく、絵図自体の研究もほとんど行われていないため、現存する絵図は作成背景がはっきりしないものがほとんど

- 近世松本城下町絵図に描写された地物の表現方法を分析し、作成目的を検討する。その分析をふまえたうえで，複数の絵図の視点から近世松本城下町の地域構成を明らかにすることを目的とする

# Ⅱ　対象地域の概要

- 松本の城下町は本州中央高地の松本盆地に位置する
- 長野県松本市の東南部で、近世から現在に至るまで松本の政治経済の中核
- 南北に善行寺街道が通り、西からは糸魚川に通じる越後道（千国道・糸魚川道）や飛騨に通じる飛騨道（野麦街道）が伸びており、宿場町としての機能も持つ
- 松本城下の周囲は東に女鳥羽川、西に田川、南に薄川、北西に大門沢川が流れ、自然の防壁の役割を果たしている

# 松本城下町の概要

- 小笠原氏・石川氏時代によって建設される
- 松本城下町は17世紀半ばに完成し，それを基盤としてその後発展していった

表1　松本城下町の形成に関する略年表

| 年号（西暦） | 城主 | 事項 |
|---|---|---|
| 天文19（1550）年 | | 武田信玄が金華山城の小笠原長時を撃破，安曇・筑摩両郡の拠点を深志城に置く |
| 天正13（1585）年 | 小笠原貞慶 | 深志城を松本城と改め，大普請を行う |
| | | 市辻（地蔵清水）・泥町（柳町）の町屋を本町に移転 |
| | | 東町・中町の町割を行う |
| | | 麻葉町を安原町，西口を伊勢町と改称し，道路を整備 |
| 文禄3（1594）年 | 石川康長 | 大天守・乾小天守が築造される |
| | | 郭内に収容しきれない侍屋敷を郭外東側の片端まで拡大，宮村町に徒士屋敷建設 |
| | | 源智の井戸に不浄を禁じる制札をかかげる |
| | | 女鳥羽川と薄川の流路変更 |
| 慶長5（1600）年 | | 正行寺・極楽寺を栗林村から城下町へ移転 |
| 慶長19（1614）年 | 小笠原秀政 | 飯田町・小池町・宮村町・和泉町・安原町・横田町・山家小路の枝町の建設 |
| | | 馬喰町の造成 |
| | | 鎌田村の天神を宮村天神に勧請し，城下の東南を形成 |
| | | 瑞松寺を飯田町から宮村町へ移転 |
| 元和3（1617）年 | 戸田康長 | 城北の安原町横町の西方に徒士屋敷（御徒士町）を建設 |
| | | 安原町竪町の両側一帯に足軽町を建設 |
| 寛永10（1633）年 | 松平直政 | 町の入り口へ番所を設置する |
| | | 城郭の増改築，天守閣の月見櫓と辰巳付櫓を建造 |
| | | 八千俵蔵，六九に厩を建造 |
| | | 新町・片端町・田町に上中級武士の屋敷を建設 |
| 寛永15（1638）年 | 堀田正盛 | 上土町に土蔵を建造 |
| 正保元（1644）年 | 水野忠清 | 安原町周辺に萩町を建設 |
| 慶安4（1651）年 | 水野忠職 | 城郭周辺に上土町・北馬場・鷹匠町・出居番町・西堀などの屋敷町を建設 |
| | | 飯田町に乾瑞寺を建設 |
| 享保12（1727）年 | 松平光慈 | 郡所や町所を六九町に建造 |
| 安永5（1776）年 | 松平光和 | 松本大火（通称綿屋火事，屋敷1274軒，295の土蔵が焼失） |
| 享和3（1803）年 | 松平光年 | 川北大火（通称飴屋火事，2027軒焼失） |
| 慶応元（1865）年 | 松平光則 | 川南大火（通称山城屋火事，1200軒焼失） |

# Ⅲ　研究方法

- 江戸時代の松本城下町を描いた絵図15枚を対象として分析を行う

表2　松本城下絵図一覧

| 名称 | 原図年代 | 書写年代 | 寸法（cm） | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|
| ①松本城中図（水野氏時代松本城下町絵図） | 1642～1725年 | | | 松本市立博物館 |
| ②松本城下絵図　水野氏時代 | 1642～1725年 | | | 松本市立博物館 |
| ③信州松本図（水野隼人侯在城家中諸士足軽屋敷割図　文化十二年写） | 1642～1725年 | 1815年 | | 松本市立博物館 |
| ④信州松本川北川南絵図弐枚 | 1669年 | | | 松本市文書館 |
| ⑤信州松本惣絵図 | 1669年 | | | 松本市文書館 |
| ⑥元禄期松本城下絵図 | 1688～1704年 | | | 松本城管理事務所 |
| ⑦享保十三年秋改松本城下絵図 | 1728年 | | 409.8×225.3 | 松本城管理事務所 |
| ⑧享保年間松本城古絵図 | 1716～1736年 | | | 松本城管理事務所 |
| ⑨信州松本惣絵図付図 | 1787年 | | | 松本市文書館 |
| ⑩川北大火略図 | 1803年 | | | 松本市文書館 |
| ⑪文化文政松本藩屋敷割図 | 1804～1830年 | | 約220×110 | 松本市立博物館 |
| ⑫文化5年から天保6年頃松本城下絵図 | 1808～1835年 | | | 松本城管理事務所 |
| ⑬天保6年松本城下絵図 | 1835年 | | 198×104 | 松本城管理事務所 |
| ⑭松本城下大絵図 | 作成年代不明 | | | 松本城管理事務所 |
| ⑮松本城下町絵図 | 作成年代不明 | | | 松本市立博物館 |

# 絵図の概要

- 研究対象とする城下町絵図の概要を表3にまとめた

表3　松本城下町絵図の概要

| | 色彩 | 屋敷割 | 町並 | 描かれた範囲 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 図1 | 赤青緑黄 | 上・中級武士居住区 | 木戸、番所、柵、寺社、井戸 | 城下町全体 | 城郭内部が極端に大きく描かれている、町外の田畑や村の記載がある |
| 図2 | 赤青黄 | 武士居住区、名前あり | 寺社、一部井戸 | 城下町全体 | 善光寺街道のみが赤く着色され、その他道路は黄色 |
| 図3 | 赤青黄 | 武士居住区、上・中級武士のみ名前あり | 木戸、寺社、一部井戸 | 城下町全体 | |
| 図4 | 黄茶 | 町屋のみ、名前あり | 木戸、寺社、水路、井戸 | 女鳥羽川以南 | 河辺家（宮村町の庄屋）作成 |
| 図5 | 青緑茶 | 全域、一部下級武士を除き名前あり | 木戸、柵、寺社、井戸 | 城下町全体 | 河辺家作成 |
| 図6 | | 全域、一部下級武士を除き名前あり | 木戸、柵、寺社、一部井戸 | 城下町全体 | 墨のみで描かれている |
| 図7 | 赤青緑黄桃薄緑 | 武士居住区、名前あり | 木戸、番所、柵、寺社、井戸 | 城下町全体 | 色分けの凡例あり。戸田氏（藩）作成 |
| 図8 | 青緑黄橙桃灰 | 武士居住区、城郭周辺一部名前記載あり | 一部木戸、寺社 | 城下町全体 | 町外東側の地形や道、清水村や筑摩神社とみられる建物の記載がある |
| 図9 | 赤茶緑 | 武士居住区、名前あり | 周囲の並木、寺社、井戸 | 城下町北部（安原町周辺） | 河辺家作成 |
| 図10 | 黄 | なし | 周囲の並木、寺社 | 女鳥羽川以北 | 火災の範囲が示されている。河辺家作成 |
| 図11 | 赤青緑黄桃茶灰 | 武士居住区、上・中級武士のみ名前あり | 木戸、番所、寺社、井戸 | 城下町全体（南端欠落） | |
| 図12 | 青緑桃 | 武士居住区、一部上級武士と庄屋に名前記載あり | 木戸、寺社、井戸 | 城下町全体 | 本陣問屋の記載、町外の道や神社（筑摩八幡宮）の記載がある |
| 図13 | 赤青緑黄桃薄緑 | 全域、全戸に名前の記載あり | 木戸、番所、柵、寺社、井戸 | 城下町全体 | 色分けの凡例あり |
| 図14 | 青緑黄 | 武士居住区、名前あり | 木戸、番所、柵、寺社、井戸 | 城下町全体 | |
| 図15 | | 武士居住区 | 一部寺社 | 城下町全体 | 町外の宝光寺山と蟻ケ崎村の記載がある |

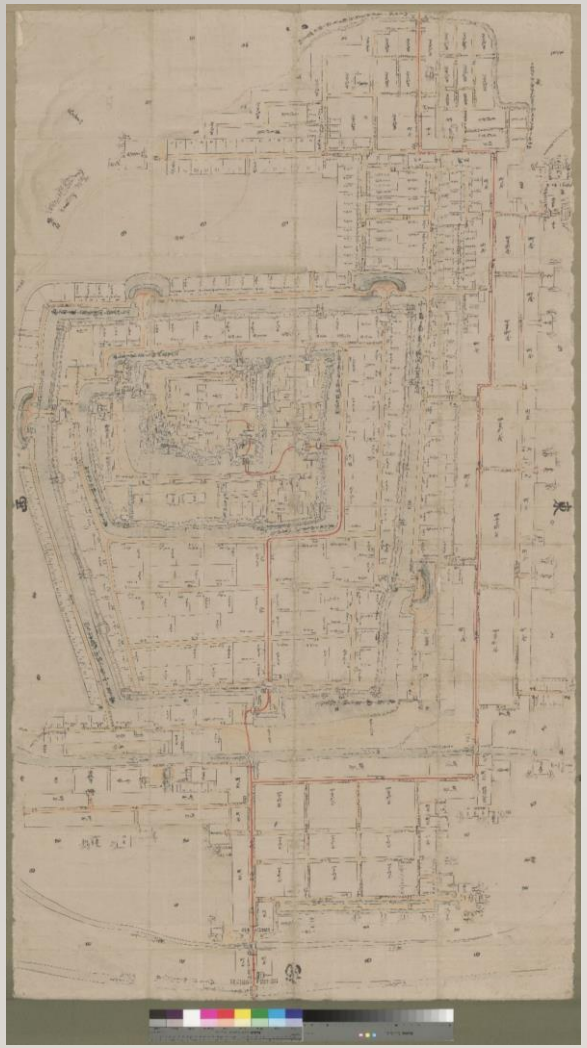

図1　松本城中図
（水野氏時代松本城下町絵図）

図2　松本城下絵図　水野氏時代

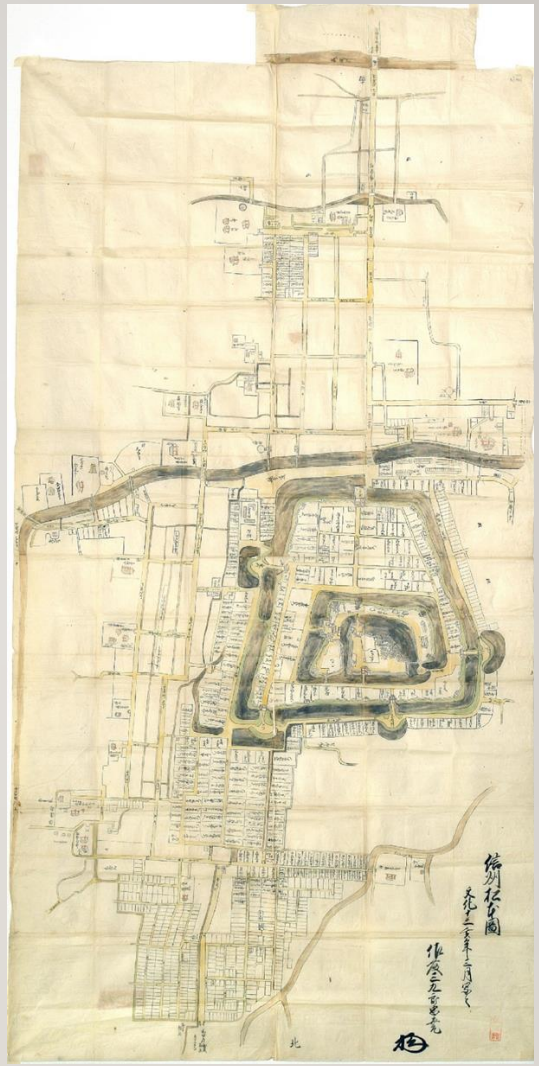

図3　信州松本図
（水野隼人侯在城家中諸士足軽屋敷割図）

図4　信州松本川北川南絵図弐枚　本町部分
接写のみのため，部分掲載

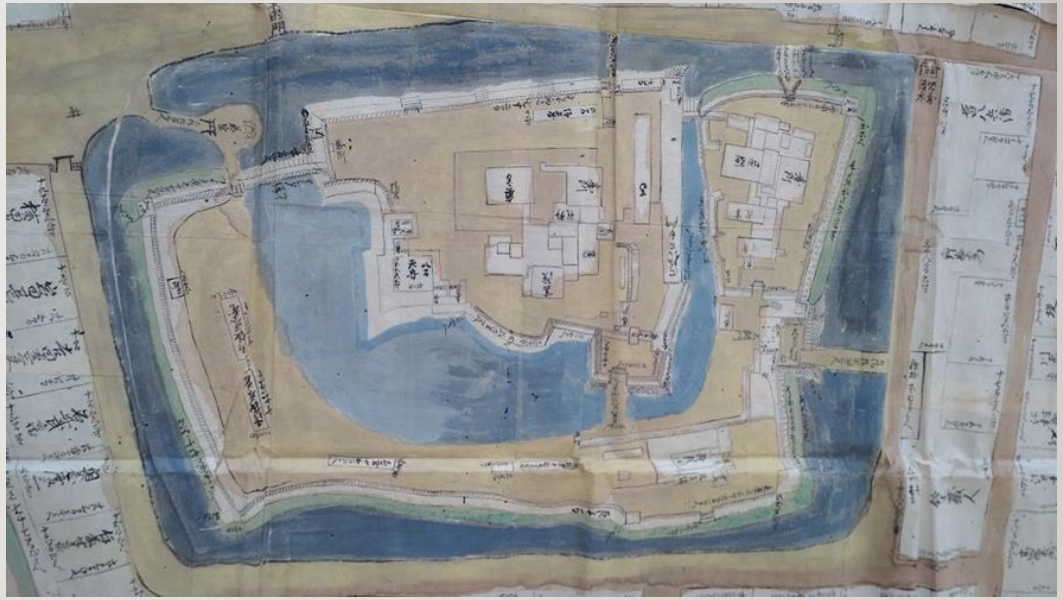

図5　信州松本惣絵図　松本城本丸・二の丸部分
接写のみのため，部分掲載

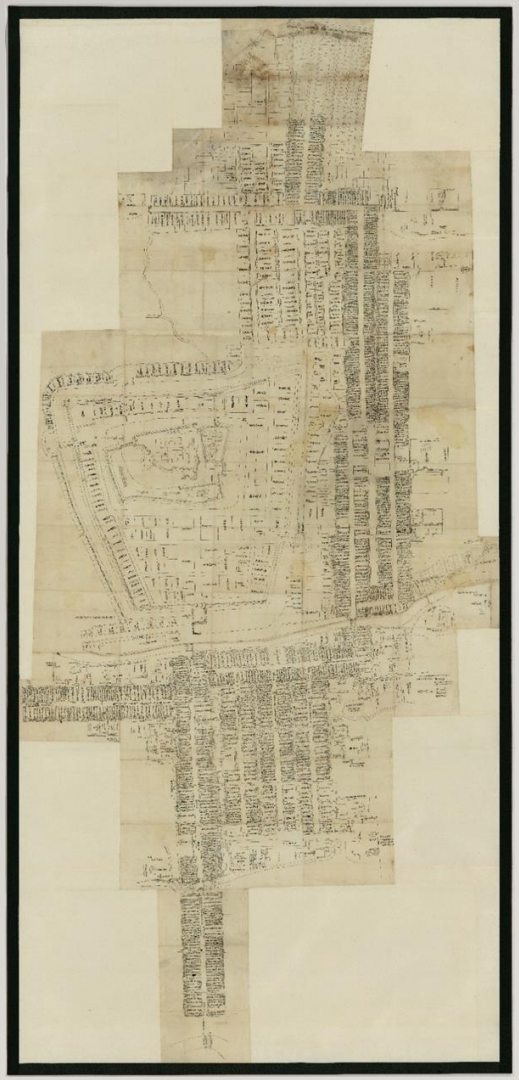

図6　元禄期松本城下絵図

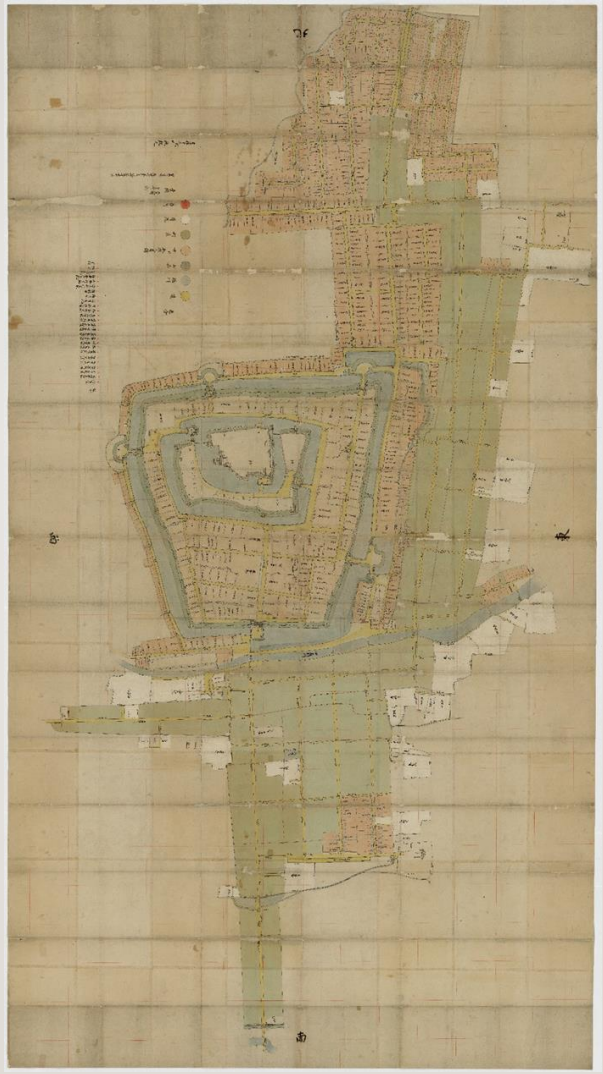

図7　享保十三年秋改松本城下絵図

図8　享保年間松本城古絵図

図9　信州松本惣絵図付図　東側部分
接写のみのため，部分掲載

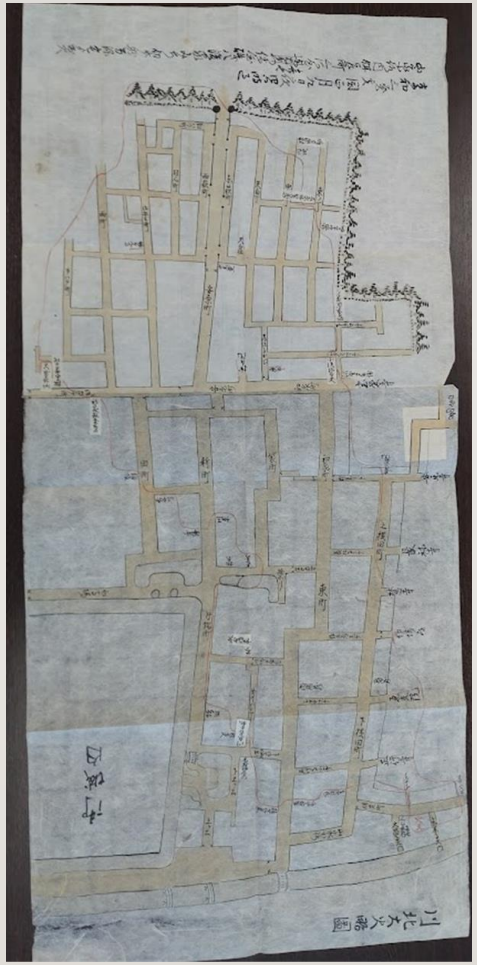

図10　川北大火略図

図11　文化文政松本藩屋敷割図

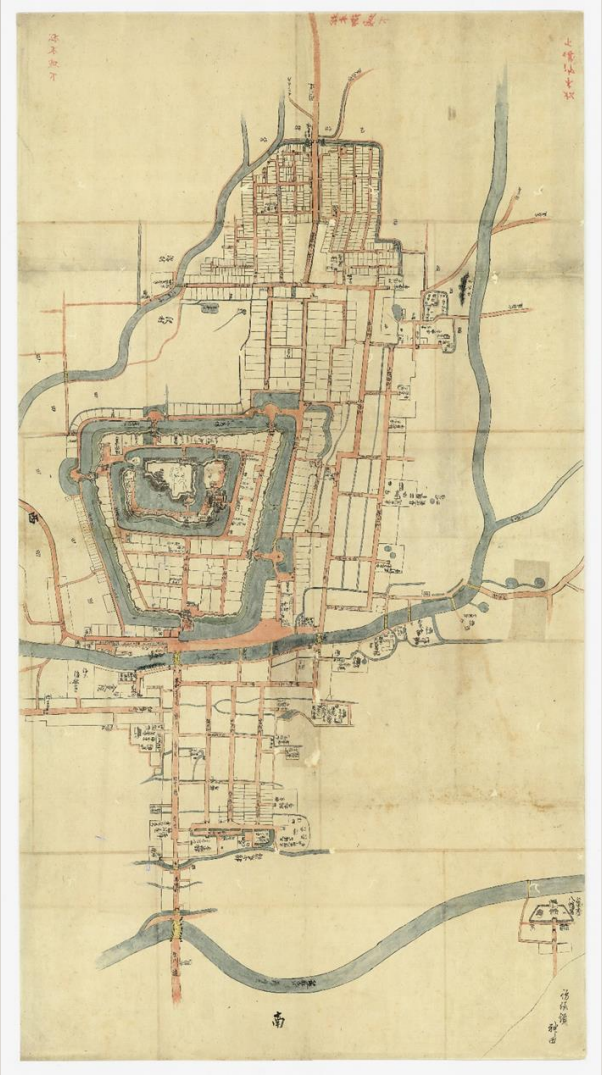

図12　文化5年から天保6年頃松本城下絵図

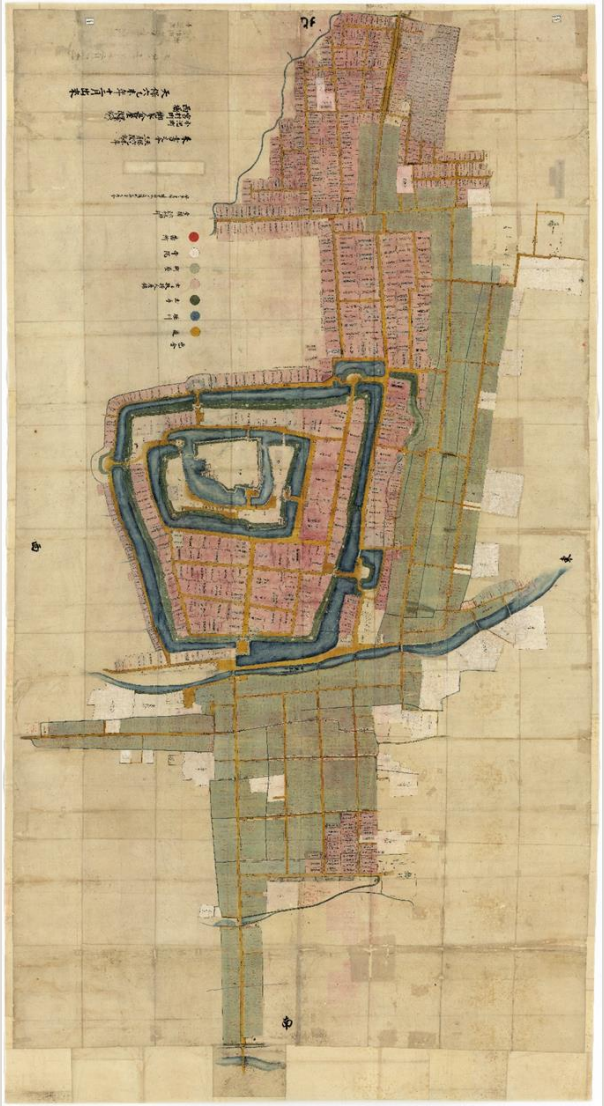

図13　天保6年松本城下絵図

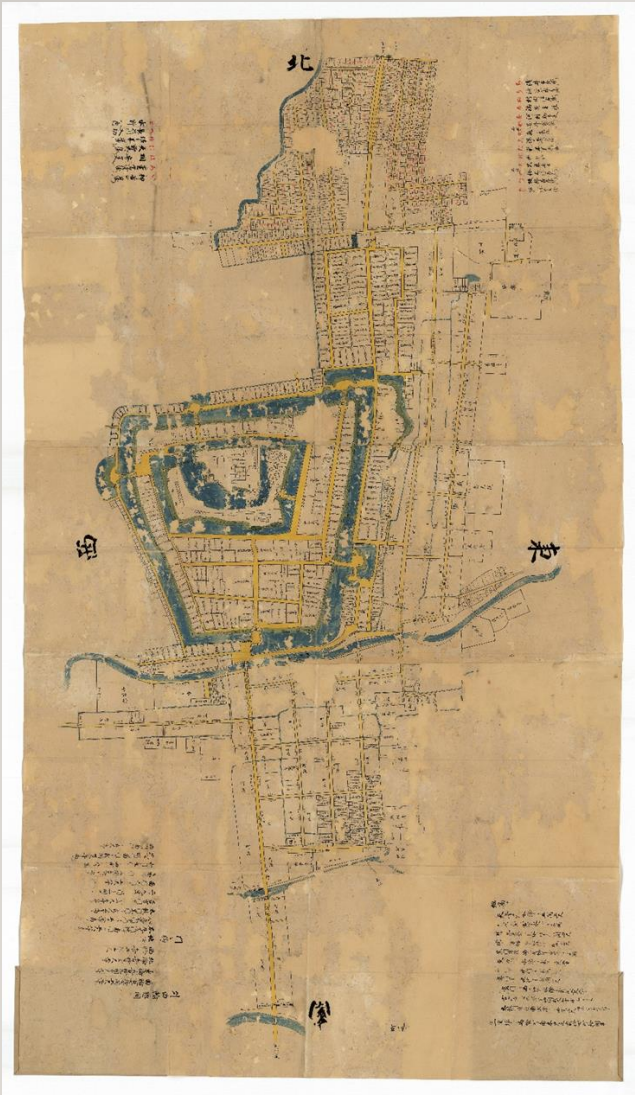


図14　松本城下大絵図

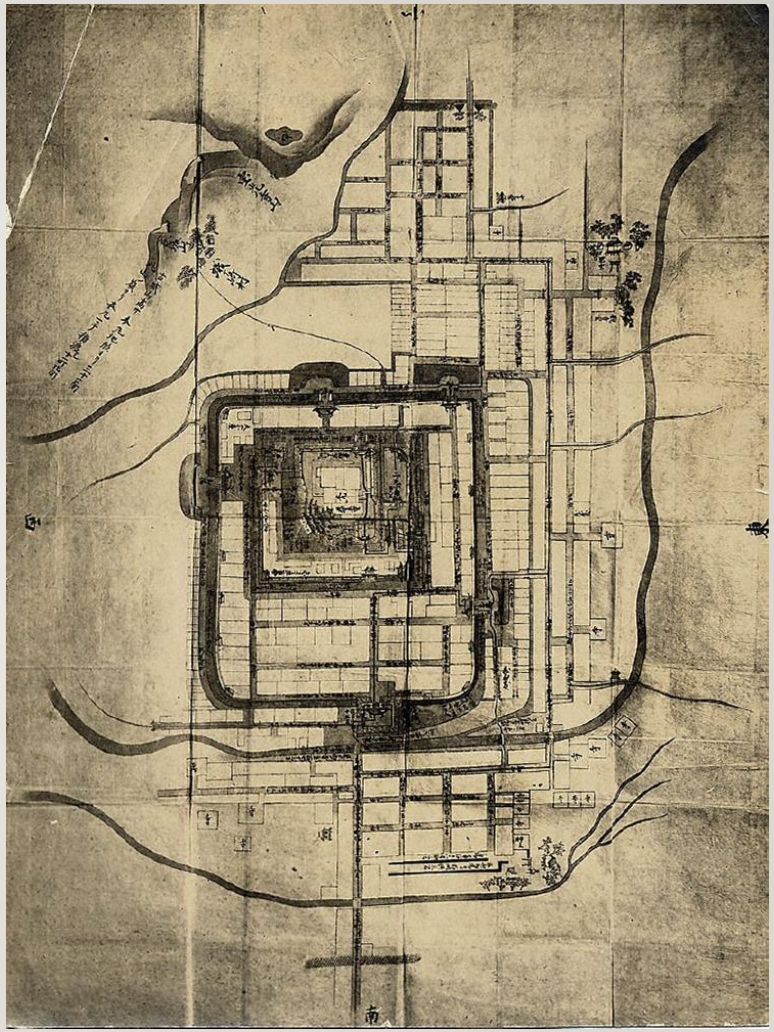


図15　松本城下町絵図

# 研究方法

- 時代区分で分類し、同時期に描かれた絵図の特徴と差異をみる。その後、時代による変化があるかを検討する
- 描写された地物の表現方法から読み取れる作成目的を用いて城下町絵図群を大きく分類する
- 『松本市史』にて言及されている松本城下町の構成要素となる地物を、絵図上からみる

# Ⅳ　時代区分による分類

- 絵図を3つの時期に分類してそれぞれの時期の特徴や差異をみる。そして、時代による描き方の変化や時系列的な変化があるかをみる。

- 一部地域だけが描かれた『信州川北川南絵図弐枚』（図4）、『信州松本惣絵図付図』（図9）、『川北大火略図』（図10）の3枚と、作成年代が不明な『松本城下大絵図』（図14）と『松本城下町絵図』（図15）の2枚を除いた10枚から検討する。

# 時代区分による分類

【時代区分グループ1】（図1,2,3,5,6）

- 元禄時代以前、水野氏が松本藩主を担っていた時代の絵図群
- 寺社が絵画的に描かれる傾向にある
- すべての絵図に武家屋敷の屋敷割が描かれている

- 水野氏が寺社参詣や寺社の改築、祭りのための神輿や金子の寄進などを積極的に行い、寺社を中心に華やかな江戸風俗が取り入れられていた

# 時代区分による分類

【時代区分グループ2】（図7,8）

- 戸田氏入封後の享保時代の絵図群
- 凡例をつけ、土地利用を色分け
- 屋敷割は武家地のみ
- グループIの段階から、菩提寺の時期変遷による変化がみられる
- 改易のため、戸田氏が松本町の土地利用について知る必要があった

# 時代区分による分類

【時代区分グループ3】（図11,12,13）

- 文化時代から天保時代にかけての絵図群
- 図11と図13は凡例がつけられ、土地利用を色で描写している
- 図12は他2つとは異なり、町外の村や寺社の描写がある

- この時期は戸田氏の治世100年を祝う祭りが開かれており、町外からの人の出入りが多かった

# 時代区分による分類

- 享保時代以降、土地利用を色で塗り分けて表現する絵図が増加した
- 寺社を絵画的に描写する傾向は享保以降減少し、名称と範囲のみの絵図が増加した

- 時代区分グループ1は水野氏時代であり、グループ2、グループ3は戸田氏時代であるため、作成主体の違いが絵図にも反映されていると考えられる

# 地物描写による分類

- 色彩や屋敷割の描写、地物の図像表現などから読み取れる作成目的を用いて絵図を大別する

- 屋敷割図→侍名とその屋敷割が描かれている（施設名の記載や絵画的な描写が多いものは町政にも使用）
- 概略図→城下町の様子が簡潔に記載
- 町政図→町人名や町人町の通り名、道の名前など
- 川崎（2018）を参照

# 地物描写による分類

- 【地物グループ1】（図2,3,9,14）

- 武家居住区のみに屋敷割が記載され、個人名が記入されている
- 屋敷地には着色せず、堀・川・道といった基本的な地物のみ着色されている
- 松本町内部のみの描写

- 屋敷割図、武士の実態把握のための絵図

# 地物描写による分類

- 【地物グループ2】（図5,6）

- 全域に屋敷割と武士名、町人名が記載されている
- 2つの絵図に記載された氏名は一致する
- 彩色図は清書図、白黒図は下書きもしくは写し図であるため、図6は図5の下書きまたは写し図であると考えられる

- 武士・町人どちらの記載もあることから、町政用図であると推測される

# 地物描写による分類

- 【地物グループ3】（図7,11,13）
- 武家屋敷の屋敷割が行われている
- 凡例がつけられ、色によって居住区や地物が表現されている
- 町外の描写はまったくない
- 図7は入封した戸田氏が家臣団の実態の掌握と城下町の支配に供するために製作したものとされている

- 図7以外の2つについても、屋敷割図として、家臣団の実態の掌握のために使用されていたと考えられる

# 地物描写による分類

- 【地物グループ4】（図8,12,15）

- 屋敷割は武家地のみで、氏名の記載はない
- 町外の村、地形、神社の記載がある
- 女鳥羽川の流路が北側まで描写されている

- 城下町内部の記載は簡潔で、松本町の周囲の地物が描かれていることから、概略図であると考えられる

# 地物描写による分類

【その他】

- 図1→城中図という名称通り、城郭内が過大に描写され、詳しく描かれている
- 図4→女鳥羽川以南の絵図、町人作成。町人地の屋敷割がある反面武家地は省略されている。町政用図と考えられる
- 図10→川北大火略図という名称通り、享和3（1803）年に起きた川北大火（飴屋火事）の焼失範囲を示している

# 地物描写による分類

以上より、松本城下町絵図の作成目的はおおまかに以下のようになる

- 地物グループ1→屋敷割図、武士の実態把握のための絵図
- 地物グループ2→屋敷割図、町政用図
- 地物グループ3→屋敷割図、家臣団の実態の掌握、城下町の把握
- 地物グループ4→概略図

これらは絵図が内包する作成目的の一つであると考えられる

# V　絵図からみる松本城下町

- 『松本市史』にて「城下町の施設」として言及されている松本城下町を構成する地物を絵図からみる
- 従来松本城下町の構成要素として重要視されているものが絵図から読み取れるかを検討する
- 近世の城下町像を色濃く反映しているとされる松本城下町の都市像に絵図からの視点を加える
- 絵図は、城下町全体を描いた12枚を対象とする（図1,2,3,5,6,7,8,11,12,13,14,15）

# 近世の城下町のしくみ

- 近世の城下町は計画的に建設された人工都市であり、身分制別居が固定された封建都市
- 城主は軍事的要塞を兼ねた居宅として城郭を構築し、周囲に家臣を配置
- 武士と町人は分離居住の原則が厳守され、町境には木戸が設置される
- 城下町の周囲には寺社を配置し、防衛上の前線基地とした

- 松本城下町も、この流れを汲んだ城下町であると考えられている

# 絵図からみる松本城下町

【町屋・武家屋敷】

- 図**7,8,11,13**といった凡例による色分けが行われている絵図から、はっきりと身分制別居が適応されているのがみられる
- また、城郭内や周囲に武家屋敷が立地し、善光寺街道に沿った範囲に町屋が立地していることがわかる

# 絵図からみる松本城下町

【井戸】

- 女鳥羽川と並んで近世松本の水資源の豊かさの代名詞

- 藩が掌握していた公的施設である源智の井戸・地蔵清水井戸・二ツ井戸は8点の絵図から確認できる
- 地形的な問題と身分的な問題から城北に遍在している萩町周辺の井戸群は、5点の井戸から確認できる

# 絵図からみる松本城下町

【十王堂】

- 石川康長が城郭の鎮護と各地への里程の基準のために、文禄年間（1592~1596年）に建立した

- 北の十王堂は最も大きいとされており、絵図も12点中10点に描写がある
- 西の十王堂も同時期の建立とされているが、元禄以前の絵図には全く描写がないため、1688～1728年の間に建立されたのではないかと推測する

# 絵図からみる松本城下町

【木戸・番所】

- 城下町の防犯や治安維持のための施設として木戸が建てられ、隣接して番所が設置された

- 木戸は10点に描写されているのに対し、番所は4点にのみ記載がみられる
- 木戸は城下町を描くうえで重視される傾向にあり、番所は省略される性格を持っている
- 町境に設置されているのがみられる

# 絵図からみる松本城下町

【寺社】

- 全ての絵図で省略されることなく描写されている
- 時代区分グループ1である元禄時代の絵図では，すべての寺社に図像描写がある
- 一方，時代区分グループ2，3では寺社は名称と範囲が記載され，鳥居や門といった一部が図像として描写されるにとどめられた

# 絵図からみる松本城下町

- 従来の松本城下町の都市像を構成する地物と、絵図に描かれる構成要素には大きな差異は見られなかった
- 寺社はすべての絵図に描写があるため、道や川と同義の松本城下町を描くうえで必須の構成要素であったと考えられる
- 絵図の視点からも、松本城下町は典型的な近世の城下町の性格を反映しているといえる

# Ⅵ　おわりに

- 時期によって絵図の書き方に変化がみられる
- 現存する松本城下町絵図を類似の特徴によって分類し、表現描写から想定される目的で大別した

- 従来城下町の重要な構成要素として考えられてきた地物は、絵図上にも表現される傾向がある
- 近世の城下町の性格を反映しているのは、絵図上からみても明らかであった

# おわりに

- 従来の近世松本城下町の都市像に絵図の描写から考察を加える点がまだ不十分
- 付随文書がないため、作成目的の詳細な検討ができない
- 翻刻されていない文書が多数あり、資料整理が必要

# 参考文献


- 石井智子 2016. 手書き彩色常陸国絵図の表現内容による分類と写図をめぐる人的ネットワーク. 歴史地理学 58－2（279）23－41
- 小野寺淳 1991. 『近世河川絵図の研究』古今書院.
- 川崎有里紗 2018. 尼崎城下町絵図の作成目的について. 地域史研究 2018 118 14-43
- 竹内靖長 2000. 松本城下町における成立過程の様相－建物遺構の変遷を中心として－. 信濃 52(10)(609)29-36
- 田中薫 2007. 『シリーズ藩物語 松本藩』現代書館.

# 参考文献


- 田中薫 2019. 江戸時代城下町の緑地空間. 松本市史研究 29 31-44
- 矢守一彦 1970. 『都市プランの研究 変容系列と空間構成』大明堂.
- 渡辺理絵 2010. 城下町絵図の研究視角—城下町研究と絵図研究の環流を目指して—